報告

2009 年度徳島大学全学ＦＤ推進プログラムの実施報告

曽田紘二、宮田政徳、川野卓二、香川順子、田中さやか、吉田 博、奈良理恵
徳島大学 大学開放実践センター

（キーワード：初任者研修、ＦＤファシリテーター養成研修、授業コンサルテーション、教育カンファレンス）

An annual report 2009 on campus wide Faculty Development programs at The University of Tokushima

SODA, Koji, MIYATA, Masanori, KAWANO, Takuji, KAGAWA, Junko, TANAKA, Sayaka,
YOSHIDA Hiroshi, NARA, Rie
Center for University Extension, The University of Tokushima

(Keywords: New faculty seminars, FD Facilitator training seminars, Individual consultations, Education conference)

１．はじめに

本年度は、第３期全学ＦＤ推進プログラム（３ヵ年）の２年目である。今年度は前年度に引き続いて、ＦＤファシリテーター養成研修、授業コンサルテーション・授業研究会、ＦＤラウンドテーブル、ＦＤとくとくセミナー、大学教育カンファレンスを実施した。去年実施した「全学共通教育担当教員初任者研修」は「教育力開発基礎プログラム」に改変し、以前のように全学対象初任者研修として実施した。

初任者研修としての教育力開発基礎プログラム及び授業コンサルテーション・授業研究会、学部ＦＤ実施者向けのＦＤファシリテーター養成研修、話題提供者を囲む懇談の場としてのＦＤ・ＳＤラウンドテーブル、スキルアップ講習としてのＦＤとくとくセミナー、特色ある教育実践・研究発表の場としての大学教育カンファレンス、という位置づけによって､各プログラムの役割を明確にし、体系性を高めた。

また、今年度より、ＦＤファシリテーター養成研修をＦＤer（ファカルティーディベロッパー）養成研修として SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）に開放し、徳島大学外からの参加者も受け入れた。その他、教育力開発基礎プログラム、ＦＤとくとくセミナー、大学教育カンファレンス in 徳島も SPOD 開放プログラムとした。

これらのプログラムは、アンケート結果及びワークショップ等の実施状況から見て、概ね所期の成果を上げたと言える。しかし、教育力開発基礎プログラム受講者への授業コンサルテーション・授業研究会についてのアナウンス、及び両者のコミュニケーションが不十分であり、プログラム実施がスムーズに進まなかった点が大きな反省点である。

今年度から、授業コンサルテーション・授業研究会をＦＤ専門委員会と当該学部ＦＤ委員会との共催で実施することとした。これにより、授業設計・実施の技術的な面のみならず、授業内容の面からも意見交換が出来るようになり、より有効なプログラムになると期待できる。

ＦＤ実施組織の面でも､平成 20 年度から全学部に学部ＦＤ委員会を設置し、ＦＤ専門委員会委員を、学部ＦＤ委員長またはそれに代わるものとしたが、今年度、11 月のＦＤ専門委員会において、専門委員会に副委員長をおき、蔵本地区から選出することを決めた。これにより常三島と蔵本地区の連携を密にし、全学ＦＤがより一層全学的になることが期待できる。

このような、組織、システム及びプログラムの継続的な整備により、徳島大学全学ＦＤが真に全学的なものになり、ＦＤの一層の発展が実現できるものと考えられる。

２．ＦＤファシリテーター養成研修

a. ねらい

平成 21 年２月の大学教育委員会において「徳島大学ＦＤ推進プログラム第３期計画（2008/4-2011/3）」が決定され、これに基づき年度ごとに「ＦＤ推進プログラム年度計画」を策定の上、ＦＤ活動を推進することとなっている。平成 21 年度は第３期計画の二年目にあたり、初年度の成果と反省に基づき、その内容を改善した上で、平成 21 年度ＦＤ推進プログラムの一環として「ＦＤファシリテーター養成研修」（合宿ワークショップ研修）を実施した。

このプログラムの目標は次のとおりである。

①ＦＤ活動の理念と活動計画を理解し、ＦＤプログラムを開発する。

②ＦＤリーダーとして活動できる能力と資質を体得する。

③ＦＤリーダー間の仲間づくり、ＦＤネットワークづくりをする。

全学ＦＤ推進プログラム第３期の２年目である今年、リーダーワークショップでは、到達目標及び内容について、昨年度から開始したプログラムを引き続き実施した。

対象者は、学部長推薦とし、各学部からＦＤ企画を立案・実施する立場の教員２名以上とした。その他、今年度からＴ－SPOD（徳島県下ＦＤネットワーク）加盟校及び SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の東部地区加盟校（香川県内）にも参加者を拡大した。プログラム内容は、ＦＤニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、ＦＤ企画の立案能力を向上させることを目標とし、プログラムはＦＤ中四国ネットワークで開発したＦＤファシリテーター養成プログラムを引き続き使用した。これまで以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

当日は、愛媛大学教育・学生支援機構の佐藤浩章先生をファシリテーターとしてプログラムを実施した。

b. 概要

■開催期日

2009 年６月 27 日（土）～６月 28 日（日）

■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」
（兵庫県南あわじ市阿万塩屋 757-39）

■参加者

【学部ＦＤ委員等】

氏　　名	所　　属	職　名
大橋　眞	総合科学部	教　授
岸江信介	総合科学部	教　授
豊田哲也	総合科学部	准教授
奥田紀久子	医　学　部	准教授
西原貞光	医　学　部	助　教
伊賀弘起	歯　学　部	教　授
竹内久裕	歯　学　部	講　師
南川典昭	薬　学　部	教　授
重永　章	薬　学　部	助　教
長宗秀明	工　学　部	教　授
清田正徳	工　学　部	准教授
堤　和博	全学共通教育ｾﾝﾀｰ	准教授
中野　晋	全学共通教育ｾﾝﾀｰ	教　授

【Ｔ－SPOD 及び SPOD 東四国】

氏　　名	所　　属	職　名
西川和孝	鳴門教育大学	准教授
幾田伸司	鳴門教育大学	准教授
横畠康吉	四国大学	教　授
吉田尚行	四国大学短期大学部	教　授
冨永貴志	徳島文理大学	准教授
溝口隆一	徳島文理大学	准教授
坪井泰士	阿南工業高等専門学校	教　授
松本高志	阿南工業高等専門学校	准教授
佐竹勝利	高松大学	教　授
岡田泰士	高松大学	教　授
日野明世	香川短期大学	教　授

■学外講師等

氏　名	所　属	職　名	備　考
佐藤浩章	愛媛大学	准教授	講　師
葛城浩一	香川大学	准教授	講　師
久保研二	愛媛大学	特定研究員	オブザーバー
大竹奈津子	愛媛大学	特定研究員	オブザーバー

■運営メンバー

氏　名	所　属	職　名
川上　博		副学長
曽田紘二	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	センター長
川野卓二	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	教　授
宮田政徳	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	准教授
香川順子	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	助　教
吉田　博	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	特任助教
田中さやか	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	特任助教
奈良理恵	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	FDﾏﾈｰｼﾞｬｰ
出川隆富	学務部学務課	学務課長
藤本一幸	学務部学務課	生涯学習係長

■内容

２日間にわたって表１のプログラムを実施した。

c. 成果と課題

プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。以下に、各問いに対する自由記述の回答を挙げる。

(1)現在のあなたにレベルアップが必要なＦＤに関連があるスキル・知識は何ですか。

・グループワークなどのワークショップ運営力。
・ＦＤとは何かを同僚に伝える能力。
・アンケート集計方法。
・学生のニーズの把握、学生を惹きつける授業技術・内容の提供。
・数々の先行例の失敗や成功例からの学び、より効果的なＦＤ研修を企画する能力。
・プレゼンテーション能力、教育内容の構成（シラバス作成能力）や評価能力。
・具体的活動の実施目標に対する項目。
・学科内でＦＤ意識を高めるための方法。
・教授法。
・授業コンサルテーション・スキルの獲得。
・ＦＤプログラムの開発。
・学内教員の教育について本音を知りたい。
・学生との信頼関係を深める能力。
・ニーズ把握の方法を修得することにより教員のＦＤへの意欲を喚起すること。
・どのように学内でＦＤを推進するのか、およびＦＤの評価方法。
・ＦＤの組織的運営にあたってのノウハウ、企画、モチベーション、まとめ、評価。
・講義スキル（学生の自主性を引き出せるスキル）。
・自分自身が動くのではなく、ＦＤ活動に関して、組織全体が有機的に機能する仕掛けを投入する能力。

(2) 会場について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・よい会場である。
・このレベルで納得すべきと考えています。
・特にありません。大変快適でした。
・参加費の視点から良かったと思います。
・ラウンド型の机の配置が良かったと思う。
・布団がやや不潔であった。
・朝のつどいは不快。
・少し暑かった。

(3) 研修内容について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・現在、研修の内容を活かすべき立場にないので、評価できません。
・内容は大変よく分かりましたが、それを基に適切に実施できたかは、自身がありません。フィードバックの時間をもう少し頂けたらと思いました。
・何日かすると改善点も出るかと思いますが、現在はよかったと思います。
・参加者同士の議論がもっと出来ると良い。
・ワークショップの内容について事前予告があれば良かった。
・企画立案はもう少し短時間で効率よく進められたのではないかと思います。

(4) 参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

・意識改革、人的つながり。
・ＦＤについて正しく理解出来た。
・ＦＤについては理解が進みました。
・ＦＤの情報が得られた。
・今後のＦＤ研修の方向性がある程度クリアになってきた。
・ＦＤの課題について考えることができました。

表１　2009 年度ＦＤファシリテーター養成研修日程

第１日（2009 年 6 月 27 日・土曜日）

9:30 国立淡路青少年交流の家到着

時　刻	内　　容	講師・担当者
9:30－10:00	・記念写真撮影、部屋の確認、会場設営	研修事務局
10:00－10:30	(1)オリエンテーション ・ＦＤへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長（教育担当） 川上 博 大学開放実践センター長 曽田紘二 （進行）川野卓二
10:30－11:00	(2)アイスブレーク	宮田政徳・香川順子
11:00－11:50	(3)　ＦＤ企画の立案と実施Ⅰ 「各部局、各校のニーズの把握」（部局ＦＤ計画と Teaching Life 集計結果より）	佐藤浩章（愛媛大学）
11:50－13:00	昼食(11:50～12:20)　休憩	
13:00－14:45	(4)　ＦＤ企画の立案と実施Ⅱ 「方略の選択、方略の手順」 中間期の振り返り演習	佐藤浩章
14:45－17:30	(5)　ＦＤ企画の立案と実施Ⅲ 「情報収集の仕方と実践」 (6)　ＦＤ企画の立案と実施Ⅳ 「企画書・プログラムの作成」	佐藤浩章
17：30－18:30	夕食（17:30～18:00）　休憩	
18：30－19:30	自由時間	
19：30－20:30	交流会	宮田政徳
20：30－22:30	風呂他　（入浴時間 20:30～21:30）	

22:30 就寝及び消灯

第２日（2009 年 6 月 28 日・日曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
7:00－7:20	朝のつどい	
7:20－8:30	朝食（7：45～8：10）　掃除（点検・退室）	
8:30－10:00	(7)　ＦＤ企画の立案と実施Ⅴ「評価の仕方」	佐藤浩章
10:00－11:50	(8)　ＦＤプログラム作成の仕上げ	佐藤浩章
11：50－12:50	昼食(11:50～12:20)　休憩	
12:50－15:10	(9)　ＦＤプログラム発表・質疑　（1 校 10 分程度） （徳島大５学部＋１センター、徳島県下大学(T-SPOD)、香川県下大学(SPOD)）	佐藤浩章 葛城浩一（香川大学） 川野卓二
15:10－15:30	(10)プログラムのまとめ ・講評 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長（教育担当） 川上　博 大学開放実践センター長 曽田紘二 （進行）宮田政徳

15:40 バス発車 － 16:40 常三島キャンパス着

・出来ることと出来ないことの見極めが重要だと再認識するとともに、プログラム作成の留意点としても意識できました。
・自身の成長が確認できたことです。ありがとうございました。
・他大学・学部の状況がよく分かった。
・必要なスキルを見定め、獲得の方向も見えて来た。やる気を高め、それを利用する方向に進める。
・ＦＤプログラムを作成出来た。
・他大学の関係者と情報交換出来た。
・ＦＤプログラムの企画化のイメージが出来ました。
・交流を通し、ＦＤに関する考え方を共有化出来た。
・ＦＤについて疑問に思っていることが少し解決しました。
・ＦＤの具体化の手法を理解出来た。

(5) その他、研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・拘束時間が短いと、さらに良いと思う。
・私の立場としてはＦＤの具体的な例を実践して頂いた方が良かった。
・長時間で疲れた。年のせいかも。
・気温、湿度の高さが少し邪魔したように思います。
・２日間は長いと感じました。
・佐藤先生のレクチャーはためになりますが、学内の実情や実際の取組み事例を取り上げたら良いと思います。

参加者へのアンケート結果の自由記述に見られるとおり、今年度もプログラム、会場、運営について概ね好評であり、普段あまり経験することのない他大学・他学部の教員との交流も良い評価を得ている。

各大学・学部・学科でＦＤを企画・実施する立場の参加者に対して、所期の目的を達成することができたと思われる。このプログラムのワークの中で、ＦＤプログラムを作成することが省力化につながり、ＦＤ担当者にとって有意義なワークになったと考えられる。来年度からの研修プログラムについてはアンケート結果を取り入れて可能な限り手直ししなければならない。

今年度の研修最後に発表された各大学の部局ＦＤプログラムを見ると、学部における初任者研修等、適切な内容と構成をもったものが多く、部局ＦＤを実施できる人材が確実に育って来ていることが実感できた。次年度以降も、このプログラムの効果を検証しつつ、ＦＤファシリテーター養成の場をより実効性あるものにして行かなければならないだろう。

３．教育力開発基礎プログラム

a. ねらい

実質的なＦＤの取り組みを進めるため、徳島大学の教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修である「教育力開発基礎プログラム」を実施した。本研修は、2007年度まで実施していた「ＦＤ基礎プログラム」をリニューアルして実施したものである。本節では、その研修内容について報告する。

本研修の目標は以下のとおりである。

①ＦＤ活動の理念、活動計画を理解する
②授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
③授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
④ＦＤ参加者同士の仲間づくりができる

b. 概要

■開催期日

2009年８月10日（月）～８月11日（火）

■会場

大学開放実践センター２階（共通教育６号館201）

■対象者

今年度は対象者が多く、参加者の人数を制限するため、対象教員を過去１年以内の採用者で助教の者とした（ただし、所属が学部以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用などの場合は除いた）。その他、大学院生、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）加盟校教員、希望者を対象とした。今年度は、先の条件に該当する参加予定者が、学内教員27名、学外教員３名、

大学院生（博士後期課程）４名の計 34 名であったが、台風９号に伴う豪雨により、参加可能な教員が 15 名、大学院生が３名の計 18 名であった。

■参加者

氏　　名	所　　属	職 名
小野公嗣	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（医学）	助教
栃谷史郎	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（医学）	助教
木平孝高	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（医学）	助教
真板綾子	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（栄養学）	助教
辰巳佐和子	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（栄養学）	助教
首藤恵泉	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（栄養学）	助教
芝﨑　恵	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（看護学）	助教
岡久玲子	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（看護学）	助教
千葉進一	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（看護学）	助教
中尾允泰	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（薬学）	助教
吉田達貞	大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部（薬学）	助教
園部元康	大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部（工学）	助教
榎本崇宏	大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部（工学）	助教
吉田　健	大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部（工学）	助教
伊藤伸一	大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部（工学）	助教
河内哲史	化学機能創生コース（工学）	院生
源　貴志	建設創造ｼｽﾃﾑ工学コース（工学）	院生
田　野	電気電子創生工学コース（工学）	院生

■運営メンバー

副学長（教育担当）、大学開放実践センター長（ＦＤ専門委員会委員長）を含め、教員９名、ＦＤマネージャー１名、事務補佐員１名の計 11 名で運営した。

氏　名	所　属	職　名
川上 博		副学長
曽田紘二	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	ｾﾝﾀｰ長
川野卓二	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	准教授
宮田政徳	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	准教授
香川順子	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	助　教
田中さやか	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	特任助教
吉田　博	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	特任助教
SteveT.Fukuda	全学共通教育ｾﾝﾀｰ	助　教
金西計英	高度情報化基盤ｾﾝﾀｰ	准教授
奈良理恵	大学開放実践ｾﾝﾀｰ	FD ﾏﾈｰｼﾞｬｰ
森川知香	学務部学務課	事務補佐員

■オブザーバー

氏　　名	所　属	職　名
木村 正司	香川大学	准教授

■内容

２日間にわたり、表２のプログラムを実施した。

■全体の流れ

［1 日目］

「(1) オリエンテーション」では、川上副学長より「大学教育、ＦＤ・ＳＤへの期待」について、曽田ＦＤ専門委員会委員長より「研修のねらいと意義」についてお話を頂いた。

「(2)アイスブレーク」では、参加者間の交流と自己紹介のため、初任者教員ならではの川柳の作成と披露を行った。作成後、作品を会場に掲示し、参加者やスタッフなどの関係者による投票で優秀賞を決めた。受賞式は研修の最後に行った。

「(3)ワークショップ　良い授業・悪い授業」では、学生の授業評価コメントを参考にしながら、良い授業や参加型授業について考え、グループごとにキーワードを模造紙に整理してまとめるワークを行った。その後、グループ間で成果を報告しあい情報共有を行った。

「(4)講義Ⅰ学びのデザイン」では、参加型授業について、ジャグリングの手法を学ぶ過程を事例として体験的に学んだ。実際に参加者がボールを使って練習をしながら、参加型授業のポイントが解説された。また、理論的背景についても簡単に紹介された。

「(5)講義Ⅱよりよい授業実施のために」では、「ＦＤ推進ハンドブック」をテキストとして、シラバスの書き方と授業計画作成のポイントについて説明された。また、よりよい評価の方法についても解説された。

「(6)ワークⅠシラバス・授業計画の作成」では、各グループに分かれて、シラバス、授業計画などの作成を行った。部屋は、パソコンが利用できるネットワーク教室、コンピューター教室、インテリジェントラボの３部屋を利用した（いずれも大学開放実践センター内）。各部屋に２名の支援者が入り、参加者は各自作成作業を進めた。

表２　2009 年度教育力開発基礎プログラム

第１日（2009 年８月 10 日・月曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
9：00－9：30	受付　（6 号館 201）	－
9:30－10：00	(1) オリエンテーション ・大学教育、ＦＤ、ＳＤへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長（教育担当） 川上 博 ＦＤ専門委員会委員長 曽田紘二 司会：川野卓二
10:00－10:30	(2) アイスブレーク ・参加者自己紹介・交流 初任者川柳の作成と披露	田中さやか
10:30－12:00	(3) ワークショップ　良い授業・悪い授業 学生の授業評価コメントの分析 ①グループワーク ②情報共有（発表・まとめ）	宮田政徳 吉田 博
12:00－13:00	休憩　　各自で昼食	－
13:00－14:00	(4) 講義Ⅰ　学びのデザイン ・参加型授業の方法 （学生の主体的な学びを促すアイデア） ・学生理解（現代の大学生に必要な支援）	Steve T. Fukuda 香川順子
14:00－15:15	(5) 講義Ⅱ　よりよい授業実施のために ①シラバス作成方法 ②授業計画 ③評価方法	香川順子（①、②） 川野卓二（③）
15:15－15:30	休憩（適宜コーヒーブレークをとる）	－
15:30－17:30	(6) ワークⅠ　シラバス・授業計画の作成 ・模擬授業の説明 ・シラバス、授業計画書、教材作成（ワーク） ・模擬授業の準備（ワーク） ・模擬授業の手順についてスタッフより連絡	司会：宮田政徳 ワーク支援：全員

第２日（2009 年８月 11 日・火曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
10:00－10:30	集合・模擬授業準備	全員
10:30－12:00	(7) 演習　模擬授業（前半） グループごとに教室へ分かれて模擬授業を実施 （授業紹介５分、模擬授業 20 分、質疑応答５分） １．（10：30－11：00） ２．（11：00－11：30） ３．（11：30－12：00）	全員（各グループ２名のスタッフが担当）
12:00－13:00	休憩　　各自で昼食	－
13:00－14:30	(7) 演習　模擬授業（後半） ４．（13：00－13：30） ５．（13：30－14：00） ６．（14：00－14：30）	全員（各グループ２名のスタッフが担当）
14:30－15:30	(8) 討論　模擬授業のまとめ ・全体討論 ・徳島大学全学ＦＤプログラムの紹介	川野卓二
15:30－16:00	(9) プログラムのまとめ ・事後アンケート ・おわりの言葉	進行：宮田政徳 ＦＤ専門委員会委員長 曽田紘二

［2 日目］

「(7) 模擬授業」では、作成したシラバスと授業計画に基づき、20 分間の模擬授業を実施した。シラバスや授業計画など自身の設計した授業紹介が５分、模擬授業が 20 分、質疑応答に５分とり、一人につき 30 分をとって進めた。模擬授業は、各自の専門科目の授業を想定して行われた。また、参加者やスタッフは、各自付箋にコメントを書き、発表者にフィードバックを行った。

模擬授業実施後、まとめの討議が行われた。そして最後に、徳島大学の全学ＦＤ活動に関する説明と、参加者の実践的な授業改善に役立つ活動として、授業コンサルテーションの紹介・申込受付が行われた。

本研修では、日常の授業改善に関する参考資料として、「ＦＤ推進ハンドブック」第１号（第１巻～第４巻）が配布された。内容は、シラバス作成、わかりやすい講義の仕方、よりよい成績評価の仕方、授業研究会の運営の仕方である。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に対する達成度

［到達目標①:ＦＤ活動の理念、活動計画を理解する］

全学ＦＤ活動に関する理念、活動計画に関するプログラムは、(1) オリエンテーションでの川上副学長による「徳島大学の教育とＦＤへの期待」と、(10) 講義「徳島大学における全学ＦＤ活動の紹介」である。これらのプログラムにより、参加教員は徳島大学の全学ＦＤ活動についておおむね理解できたのではないかと思われる。

しかし、台風による混乱により、初日のオリエンテーションに参加できなかった教員がいたことや、落ち着かない中での研修のスタートとなったこと、最終日の最後に、時間がない中ＦＤの紹介を行ったこともあり、参加者には十分にその重要性が伝わっていなかったようだ。

世界の状況、国の制度的な背景も含め、ＦＤの意義を明確に伝えるためにも、より構造化された研修のデザインが必要である。

［到達目標②:授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する］

一連の作業とそのポイントについて、「ＦＤ推進ハンドブック」を基に説明を行った。参加者の多くが授業を担当しておらず、模擬授業を初めて経験する教員も多かったようである。初めてシラバスを作成する教員も多い中、授業計画の一連の作業について十分に説明する時間をとることができず、要点をうまく伝えられなかったことが考えられる。

参加者は、ワークを通して、テキストを確認しつつ作業をすることにより、一連の手順やポイントをおさえられたのではないかと考える。研修で具体的な支援が行えなかったところについては、授業コンサルテーションにおいて支援していきたい。

［到達目標③: 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする］

具体的な評価視点を提示し、付箋を使って模擬授業実施後にコメントをフィードバックしたことにより、参加者は多くの気付きを得られたようである。他者から良い点や改善点をコメントしてもらうことにより、それが自信へつながったり、自身では気づかない点に気づいたりするなど、予想以上に効果があったようである。

多くの教員が模擬授業に対して抵抗を持っていたようだが、実際に実施してみると、良かったという意見が多かった。これらの体験を通して、参加者は授業研究の仕方と実践についてその意義をある程度は理解できたと考える。この経験を基に各教員の授業研究が活発になることを期待する。

［到達目標④:ＦＤ参加者同士の仲間づくりができる］

グループワークやアイスブレーク、模擬授業などを通して、参加者間のつながりはある程度できたようである。また、同じ領域の教員を同一のグループにすることで、所属学部内でのつながりが促進されたのではないかと考える。今後、教育の質向上のためのＦＤコミュニティのメンバーとして、当事者意識が芽生えることを期待したい。

初任者教員のつながりを持たせることは、大学コミュニティへ導入的に参加していく最初の過程として重要な意味を持つと考える。今後は、人と人とのつながりをより促進するような活動を取り

入れ、日常的な活動へとつなげていけるような支援を行うことが必要である。

■今後の課題

研修全体を通して、約９割の参加者が内容を十分に理解できたと回答し、約８割が全体的に満足できるものであったと回答している。また、研修会場の快適さ、設備については参加者全員が満足しており、特に大きな問題はなかったようである。全体的にみるとおおむね参加者は満足したようであるが、改善すべき課題はまだ多くある。大きな課題としては、以下の課題があげられる。

今回は台風により、連絡体制がうまくいかず、一部混乱を招いた。今後は災害等に備え、緊急連絡体制や研修の中止、延期などの状況判断を行うためのガイドラインを整備する必要がある。

また、事前準備については、アンケートにも見られるように、事前に準備しておくべき事柄を明確に分かりやすく伝え、より効果的な研修を実施することが必要である。

実施内容については、アンケートにもあるように、模擬授業により他教員の授業を見ることで新たなアイデアを得たり、他者からコメントをもらったりする事が効果的であったようだ。しかし、シラバス作成や授業計画について、具体的な支援が十分ではなかったため、その方法を工夫する必要がある。

参加者については、助教のみとした場合、担当授業を持っていない教員も多く、今回のプログラムとは別の支援が必要であることが分かった。このプログラムでは、例年通り准教授、講師を中心に対象者とし、授業未経験者、院生に対しては、別の支援の機会を提供する必要がありそうだ。

以上にあげたもの以外にも課題はあるが、詳しい課題の検討とその報告については別の機会に譲りたい。今後は小さな課題も含めて改善し、より有意義な研修を実施していきたい。

d. 初任者研修アンケート結果

最後に、プログラム終了直後に実施したアンケート結果について、自由記述の回答を示す。

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。（具体的に）

・講義の話し方（簡潔さ）と成績評価法。
・授業での話し方（早口になってしまう）生徒との距離感。
・授業内での時間配分に気を配るスキル。
・受講者とコミュニケーションをとるスキル。
・教育力、表現力、リーダーシップ力、プレゼン能力。
・専門の正確な知識、理論の理解と実際の看護への適用、考え方の構築。
・専門知識のレベルアップが必要である。また、学生を意識する気持ち、学生が学びやすい環境を作り出そうという熱意をより強く持つ必要がある。
・授業をするテクニック、話術。
・シラバスの作り方、シラバスとおりの講義をすること、落ち着いて語ること。
・今、大学院生にとって専門知識をうまく説明するため言葉能力をアップしたいと思う。
・専門科目の知識とその知識を何も知らない人に分かりやすく伝えるスキル。
・学生の評価方法について更なる知識を身につけたい。
・内容が良く理解してもらえるような教材の作成。
・話術、講義中の学生とのコミュニケーション能力。
・幅広い分野の知識。
・教材の準備、授業の進め方。

(2) 研修内容について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・私個人だけかもしれませんが、学会発表と工学部科学体験フェスティバル、オープンキャンパスと重なってしまい、少し負担に感じた面がありました。開催時期の変更もしくは事前準備の案内を２～３週間前にしてもらえると良かった。
・時間配分にもう少しゆとりがあれば良かったと思います。事前に思っていたよりも、とっても内容が良かったので、前にもう少し具体的に（楽しさ）をアピールされると良いと思います。
・研修の内容はとても身になる内容でした。

・今回は台風の影響で研修の有無が直前まで確認できず困りました。（電話がつながったのは８：30 でした）中止条件は明記されていましたが、確認が取れるような担当の方の携帯へ転送されるなどの対応をお願いしたいと思います。
・事前準備で可能な範囲は広い。予め準備することを強くすすめ、シラバス作成などの当日は見直し程度にし、翌日の模擬授業に入る。このようにすると１日半でプログラムが終了できそう。
・タイムキーパー、シラバスの作り方の具体的な方法。
・悪天候時の連絡等の対策をお願いいたします。
・拘束時間が長すぎます。負担が大きすぎる。

(3) 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

・参加型授業の意義の理解と評価法の指針を得たこと。
・自分の欠点を知ると共に他の方の授業の進め方を見ることができ、大変貴重でした。
・同じ分野の先生の講義を聞いた経験がなかったように思うので良かった。
・とてもストレスでしたが実際に講義をしてみることで自分のクセや改善点を見つめ直すことができました。また研修講義や先生方の模擬授業を見せてもらうことで新鮮なアイデアを頂きました。
・他の教員の方法を知ることができた。また、他者の評価を頂くことができた。
・他の先生の講義スタイルを知ることができた。
・自分の講義の改善すべき点を知ることができた。
・他の先生方の授業の仕方を参考にすることができた。
・学生に自己目標を立てさせ学習意欲を高めるなどの点が参考になった。
・他の人の講義スタイルを見ることができた。
・参加型授業の必要性を認識できた点。
・他の先生方から良い点・悪い点を評価して頂き有益なコメントを頂くことができた。
・一度模擬授業を経験できてよかった。
・とにかく、拘束時間が長すぎます。世界に通用する研究を行うためには研究に費やせる時間は貴重です。

(4) その他、研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・休憩時間中にカメラの映像がスライドに映っていて監視されているようだった。
・まる２日をとらなくても、週２時間を６回とかにするスケジュールも行うとより多くの人が受講できると思う。
・待つ時間がもったいない。
・冷たい飲み物がほしかった。
・資料の配布のみで十分、せめて一日にすべき。

４．授業コンサルテーション

a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では、全学ＦＤ推進プログラムの一環として、2005 年度より「授業コンサルテーション」を実施しており、2009 年度においても引き続き行った。授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なＦＤをめざしている。2009 年度の授業コンサルテーションは、二日間に渡って実施した「教育力開発基礎プログラム」（８月 10～11 日に実施）の受講者を主な対象にした企画である。

b. 授業コンサルテーションの流れ

現在のところ、昨年度と同様に次のような流れで進めている。

教育力開発基礎プログラム（ＦＤ基礎プログラム）参加者の授業への参観・ＶＴＲ撮影・学生アンケート
↓
授業記録作成・学生アンケート整理
↓
授業研究会（発表・VTR 視聴・議論）
↓
目的：授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化

まず、センター教員と撮影担当者が、各教員の授業を参観し、簡単なメモ（授業まとまり、時間経過、特筆するべき発言や出来事）をとりつつ、

授業をＶＴＲに収める。授業終了時には、学生へのアンケート（その日の授業で何を学んだかということと、授業に関する先生へのメッセージについて）を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

その後、ＶＴＲをもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集し、ＤＶＤを作成する。授業記録は､時系列に沿って授業の展開過程(まとまり、何が話されているか、学生との相互作用、板書など）がわかるように作成した。ＤＶＤは授業の展開が分かるように、各まとまりから数分間の映像を抽出し、合計で 20 分強になるようまとめた。さらに、授業より数週間後、授業記録やＤＶＤ、学生アンケート結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合ったり、また授業からいろいろなことを学び合うことを目指した。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で１時間 20 分ほどである。これも昨年度と同様の手順である。

簡単な説明（授業全体のねらい／この日のねらいなど：対象者の先生より５分）
↓
授業ＤＶＤ視聴
↓
授業参観者報告・学生アンケートから読めること（大学開放実践センター教員より５～10 分）
↓
授業者解説（当日の様子／授業でうまくいっている点・お困りの点など各論：対象者の教員より５～10 分）
↓
自由討論（あるいは課題討論 10～15 分）

徳島大学に着任した新任教員（今年度は助教のみ）のうち、授業をもたない教員などを除き、2009 年度は２名の教員に対して授業コンサルテーションを行った。今年度は、台風の影響により研修への参加者が少なかったこと、助教のみを対象としたことで、授業を担当している者が少なく、コンサルテーションの対象者が少なかった。また今年度より希望者へも広報を行ったところ、２件の申し込みがあった。

また、2009 年 12 月より学部ＦＤ委員会との共催で、対象教員と同じ部局に所属する教員が常時授業研究会へ参加することとなった。以前より専門分野の教員へも広報していたため、研究会への参加者はあったが、同領域の教員が常に参加する状態ではなかった。学部ＦＤ委員との共催とすることで、専門的な立場からの教員が常時参加し、専門的な視点から議論する体制が整った。

授業研究会では大学開放実践センター教員のほか、対象教員が所属する部局等からの参加がみられた。なお、授業研究会は、授業研究インテリジェントラボあるいは蔵本キャンパスの会議室で行った。2009 年度の授業研究会は以下のとおりである。

●第１回 2009 年６月 22 日（木）16:30～17：50
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
・授業担当者：Kalubi Bukasa 助教（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター）
・授業題目：『Medical Communication』
・議論内容：この授業は、グループごとに医学系の英語論文を要約し、それを英語でプレゼンテーションするものであった。特に最近の学生は質問が少ないということが問題として取り上げられた。また、学生にとって難しい課題であっても挑戦させることや、学生が一人ではできないことをできるようにするために、工夫して支援していくことの重要性について議論がなされた。少しの工夫で学生からの質問や意見を引き出す可能性についても議論された。

●第２回 2009 年９月２日（木）18：00～19：20
・開催場所：臨床研究棟１階西　第３・第４会議室（蔵本キャンパス医学部）
・授業担当者：佐田政隆教授（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　循環器内科学）岩瀬俊助教（徳島大学病院循環器内科）
・授業題目：『臨床講義（循環器内科学）』
・共催：医学部教育支援センター、医療教育開発センター（臨床講義ＦＤ）

・議論内容：この授業は、ある患者への問診事例から、治療の手続きに沿って身体所見、心電図、レントゲンなどのデータを具体的に提示しながら、学生にどのような治療をしていくのかを要所で考えさせていく授業スタイルであった。本物の患者とのやりとりを見せるには、プライバシー等の問題があり、どのようにすればよいかということや、内科以外の異なる科の場合、どのように臨床講義を行えばよいのかなど、臨床講義を担当する教員を交えて具体的な議論がなされた。

●第３回 2009 年 12 月 16 日（木）10：00〜11：30
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
・授業担当者：園部元康助教（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部　エネルギーシステム部門）
・授業題目：『機械数値解析』
・共催：工学部ＦＤ委員会
・議論内容：この授業では、教員自身が行っている質問カードを利用して、学生からの質問に答えるなど、学生が質問しやすい環境づくりを工夫しているものである。授業での話し方、数式を説明する場合の黒板の使い方、授業ペースについて課題が提示され、先輩教員を交えながら具体的な議論がなされた。その他、学生の学力に合わせてどのような支援が必要なのか、カリキュラムや学部の体制等も含めて考えていかなければならない点についても議論がなされた。

●第４回 2010 年１月 29 日（金）13：30〜14：50
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
・授業担当者：内海千種助教（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・授業題目：『人間行動実験実習Ⅳ』
・共催：総合科学部ＦＤ委員会
・議論内容：この授業は、これまでに学んできたカウンセリングに関する知識を確認するために、グループワークやロールプレイなどの体験を通した実践的な学びを重視した授業スタイルであった。教員がグループワークにどのように関わればよいかといったファシリテーターとしての関わり方、真の学びを促す学生への支援の仕方や、学生の意見を引き出し、教室全体でうまく共有する方法などについて議論がなされた。参加型の授業として、他の参加者にも参考となる授業研究会であった。

５．ＦＤとくとくセミナー

a. ＦＤとくとくセミナーの目的

第３期全学ＦＤプログラムが始まった 2008 年度から始まった新しい企画として「ＦＤとくとくセミナー」がある。このセミナーでは、授業改善のための具体的なスキルアップを目指してレクチャーやワークショップを中心に行うもので、今年度は８月下旬から９月下旬にかけ、計４回実施した。

b. 各回の概要

●第１回ＦＤとくとくセミナー（参加者 13 名）
【日時】2009 年８月 28 日（金）16:00〜18:00
【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）
【対象者】本学教職員及び SPOD 関係教職員
【内容】講演
・講演者：川野卓二先生（徳島大学大学開放実践センター）
・テーマ：Significant Learning（意義ある学習）を目指す授業設計
・概要：学生に意義ある学習体験を提供するために、米国オクラホマ大学の L. Dee Fink（2003）が提唱する Significant Learning の体験を目指した授業設計の 12 ステップが紹介された。具体的には、新しい授業科目を計画する際や、既存の授業を改善する際の参考となるもので、授業に関する状況要因、学習目標、評価方法、授業内容、学習活動など、授業設計の要点についてステップを踏みながら、統合的に組み立てる方法について解説された。

●第２回ＦＤとくとくセミナー（参加者８名）
【日時】2009 年９月４日（金）15:00〜17:00
【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）
【対象者】本学教職員及び SPOD 関係教職員
【内容】ワークショップ
・ファシリテーター：香川順子、田中さやか先生（徳島大学大学開放実践センター）

・テーマ：学習意欲を高める工夫を考える
・概要：講演の部では、田中先生から大学生の学習動機の因子や背景、学習意欲の構成要素など、学習意欲を高める方法に関する理論的な枠組みに関して紹介された。また、香川先生からは学習を促すための授業デザインとして、参加型授業の方法と留意点や、SNS、Moodle などの ICT を利用した授業について紹介された。参加者のワークでは「授業改善シート」の作成に取り組みながら、参加者自身の授業の長所や課題を見出し、課題の解決方法についてグループ全員でアイデアを出し合った。セミナー後の感想では「自分の授業について、他の先生と意見を交えることができ、大変有意義な時間だった」というものが多く見られた。

●第３回ＦＤとくとくセミナー（参加者 13 名）
【日時】2009 年９月 18 日（金）16:00～18:00
【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）
【対象者】本学教職員及び SPOD 関係教職員
【内容】講演
・講演者：荒木秀夫先生（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・テーマ：身体教育の再考―身体を通じた教養教育への模索―
・概要：人間の示す多様な能力を統一的に把握しようとする理論を、体験的な学びを通して学んでいく授業が紹介された。知性として、教養としての「身体知」を学ぶ授業の中で、実際にさまざまな動きを体験し、その意味を学んでいくもので、学生の教養を深め、興味をかきたてる工夫について説明された。また教養を持つことの大切さ、考えることの意味、学生を教育していくことの意義について参加者と意見交換された。

●第４回ＦＤとくとくセミナー（参加者 18 名）
【日時】2009 年９月 25 日（金）16:30～18:00
【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）
【対象者】本学教職員及び SPOD 関係教職員
【内容】講演
・講演者：出川隆富学務課長（徳島大学学務部）
・テーマ：学務系職員養成プログラム開発現状報告
・概要：SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）では、事務職員の資質・能力向上を目的に、四国地区の国公私立大学、短期大学、高等専門学校の職員が集まり、ＳＤプログラム開発を進めている。このセミナーでは、「SPOD－SD プログラム開発セミナー（第２回～第４回）」において、参加職員がチーム毎に作成したプログラムを基に、作業グループがまとめたものを中心に発表された。具体的にはＳＤプログラム開発の概要、学務系職員養成プログラムの内容・構築の手法及びこれまでの作業過程について報告された。人員が削減される中、事務職員の能力向上を効果的に行う必要性、必要な能力についてわかりやすく指示することの重要性、学生相談などのような職員と教員が連携して行うべき事項などが分かり易く説明された。

６．ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル

a. ＦＤ・ＳＤラウンドテーブルの目的

徳島大学では、2005 年度より実施している第２期全学ＦＤプログラムの一環として、「ＦＤラウンドテーブル」と呼ばれるプログラムがある。第３期全学ＦＤプログラムにおいても引き続き実施されており、2009 年度からは「ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル」として開催し、大学内外の講師からＦＤ関連の話題提供を受けている。主な内容は徳島大学教員が直面している課題やＦＤに関する諸問題に関するもので、それらのトピックをもとに参加者が気軽に話合い、日常的なＦＤ活動を目指している。2009 年度は４回行われた。

b. 各回の内容

●第１回ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル（参加者 11 名）
【日時】2009 年５月 28 日（木）15:00～17:00
【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）
【テーマ】「ティーチングライフ」調査とこれからのＦＤ活動
【話題提供者】川野卓二先生、香川順子先生、田中さやか先生、吉田博先生（徳島大学大学開放実践センター）

【内容】昨年実施した、本学で学士課程の授業を担当している教員を対象とした「平成 20 年度教員の教育に関する意識調査」（ティーチングライフ調査）の結果の一部に焦点を当て、さまざまな視点から捉えなおし、本学の今後の教育改善やＦＤ活動へつながる話し合いの場を持った。

●第２回ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル（参加者 14 名）

【日時】2009 年７月 22 日（水）15：00〜17：00

【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）

【テーマ】教育の質を向上させるための学生ワーキングループによる教育改善の取組み

【話題提供者】齊藤隆仁先生（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）、吉田 博先生（徳島大学大学開放実践センター）

【内容】教育の質を向上させるための学生ワーキンググループは、常三島地区の学生と教員により構成されており、ミーティング、フォーラムの企画・実施などの活動を通じて実践的に教育改善に取り組んでいる。その活動状況の報告とともに、愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）を紹介し、本学における学生を交えた活動の今後の方向性を検討し話し合う場を持った。

●第３回ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル（参加者 13 名）

【日時】2009 年 11 月 13 日（金）15：00〜17：00

【場所】授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター３階）

【テーマ】大学の内部質保証とアカデミックポートフォリオ

【話題提供者】大家隆弘先生（徳島大学評価情報分析センター）

【内容】大学のユニバーサル化の時代を迎え、大学の目的も多種・多様化している。そのため画一的でない大学独自の内部質保証システムが求められている。教員レベルにおいても同様に独自評価を行う必要性から、教員の教育・研究・サービス活動を総合的に文書化するための方法としてアカデミックポートフォリオが注目され始めている。大家教授から、８月３日の大学評価・学位授与機構主催のフォーラムで紹介されたアカデミックポートフォリオの概要が紹介された。

●第４回ＦＤ・ＳＤラウンドテーブル（参加者９名）

【日時】2010 年１月 22 日（金）16:30〜18:00

【場所】共通教育６号館 201（大学開放実践センター２階）※保健学Ｃ棟Ｃ-11 へ遠隔配信

【テーマ】組織横断型教育クラスターによる大学院教育改革の取り組み

【話題提供者】赤池雅史先生（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センター）

【内容】ヘルスバイオサイエンス研究部では、医療系の全領域を網羅する教育・研究組織が蔵本キャンパスに集約している特徴を活かして、組織・専門分野の異なる複数の教員からなる教育クラスターを形成し、「コラボレーション・組織柔軟性・学習者中心」をキーワードに、世界最高水準の生命科学研究者の育成を目指した大学院教育を開始した。この取り組みが、平成 21 年度文部科学省・組織的な大学院教育改革推進プログラムに採択された。そのプログラムの内容を紹介いただき、本学大学院教育ＦＤを考える出発点としたい。

７．大学教育カンファレンス in 徳島

【会期】2010年３月３日（水）9：15〜17：45

【会場】徳島大学大学開放実践センター

第３期全学ＦＤプログラムの第２年目に当たる今年度の教育カンファレンスは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の開催行事としても実施することになり、名称を「大学教育カンファレンス in 徳島」と改称した。過去２年間実施していた１月とは異なり、後期授業修了後の３月に大学開放実践センターを会場として開催した。今回も各学部からの発表があり、口頭発表18件、ポスター発表９件、ワークショップ１件の計28件となった。その内２件（ポスター発表１件、口頭発表１件）は、阿南工業高等専門学校、および徳島文理大学からの発表であった。また、特別講演として、弘前大学21世紀教育センターの土持・ゲーリー・法一教授による講演が「ラーニング・ポートフォリオ〜学生の学習改善と教員のＦＤ活動のために〜」と題して行われた。参加者は、学外からの参加者18名を含む、約100名であった。

平成21年度 全学ＦＤ 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2010年３月３日（水）　会場：徳島大学大学開放実践センター

8：45 ～ 9：10	＜大学開放実践センター1階玄関前＞　受　付		
9：15 ～ 9：25	副学長挨拶　川上 博　＜第１講義室＞ *司会：曽田紘二*		
9：35～ 12：00	***口頭発表Ａ*** *座長：酒井徹* ＜第１講義室＞ Ａ① 9：35～10：00 ■学生による全学共通教育及び所属学部・学科に対する印象評価 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 佐野勝徳 他	***口頭発表Ｂ*** *座長：堤和博* ＜第２講義室＞ Ｂ① 9：35～10：00 ■高大接続科目でみる学力不安とその実情 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 菊池淳 他	***ワークショップ*** *座長：松浦健二* ＜6-201講義室＞ 9：35～11：35 ★協同学習の理念と技法を学ぶ～学生の変化・成長を促す授業づくり～ 久留米大学　安永悟 国際センター Gehrtz 三隅友子
	Ａ② 10：05～10：30 ■徳島大学の新スキルスラボ紹介①ーシミュレーション教育への発展を目指してー 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 医療教育開発センター 寺嶋吉保 他	Ｂ② 10：05～10：30 ■社会人ボランティアを活用した教養教育 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 齊藤隆仁 他	
	Ａ③ 10：35～11：00 ■口腔保健学を基軸とした国際的社会福祉教育プログラムの構築に向けて 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 口腔保健教育学分野 伊賀弘起 他	Ｂ③ 10：35～11：00 ■社会人と学生がつくる自主講座『実用健康学～手当てとそのこころ～』を実施して 全学共通教育センター 光永雅子 他	
	Ａ④ 11：05～11：30 ■２種類のコミュニケーション授業の比較ー保育所実習を含む授業と学内演習のみの授業の比較検討ー 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他	Ｂ④ 11：05～11：30 ■社会人活用した意義ある学習体験を提供する授業設計と省察 全学共通教育センター 嵯峨山和美 他	
	Ａ⑤ 11：35～12：00 ■履修困難学生のための再チャレンジプログラム 大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部 金崎英二	Ｂ⑤ 11：35～12：00 ■学生企画　学びのコミュニティー“Hatoba”の取り組み 総合科学部人間社会学科３年 的場一将 他	
昼　食　休　憩			

13：00～ 14：30	***特別講演*** *司会：川野卓二* ＜第１講義室＞ 演題：「ラーニング・ポートフォリオ～学生の学習改善と教員のＦＤ活動のために～」 講師：土持・ゲーリー・法一先生 弘前大学 21 世紀教育センター 教授／副センター長	
14：45～ 15：45	***ポスター発表*** ＜1階ロビー＞ *座長：大橋眞* ●高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第２報）Ｐ① 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 渡部稔 他 ●テキストマイニング分析を用いた特別支援教育における学生ボランティアの評価Ｐ② 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 岸江信介 他 ●徳島大学における入学前教育の試行Ｐ③ 大学院ｿｼｵ・ｱｰﾂ・ｱﾝﾄﾞ・ｻｲｴﾝｽ研究部 齊藤隆仁 他 ●徳島大学の新スキルスラボ紹介②ー職種と医療機関を超えた医療人教育を目指してーＰ④ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 医療教育開発センター 福富美紀 他 ●大学院 GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」ー医療教育開発センターによる大学院教育支援の取組ーＰ⑤ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他 ●地域育成型歯学教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの評価ー地域福祉体験学習の取り組みを通してーＰ⑥ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 口腔保健衛生学分野 中江弘美 他 ●有機化学における u-Learning を利用した学習効果についてＰ⑦ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 宇都義浩 ●徳島大学全学ＦＤ推進プログラムの活動報告Ｐ⑧ 大学開放実践センター 香川順子 他 ●阿南高専における授業改善システムＰ⑨ 阿南工業高等専門学校 松本高志 他	
15：50～ 17：45	***口頭発表Ｃ*** ＜第１講義室＞ *座長：前澤博* Ｃ① 15：50～16：15 ■大学と地域を結ぶ教育活動～日本事情「吉野川プロジェクト」・「徳島を『食べる』プロジェクト」～ 国際センター Gehrtz 三隅友子	***口頭発表Ｄ*** ＜第２講義室＞*座長：長宗秀明* Ｄ① 15：50～16：15 ■共用試験 OSCE の項目特性曲線と評価者間変動に関する分析ーテスト項目の信頼性と妥当性の検討ー 医学部教育支援センター 三笠洋明 他
	Ｃ② 16：20～16：45 ■教科書から飛び出した日本語教育ー使える日本語への手立てー 国際センター 大石寧子 他	Ｄ② 16：20～16：45 ■ＦＤファシリテーター養成研修における参加者の意識変容に影響した経験についての分析　2009 年度ＦＤファシリテーター養成研修の効果検証をもとに 大学開放実践センター 田中さやか 他
	Ｃ③ 16：50～17：15 ■新しいアンケートの試みー教員による自由作成項目の導入と１年目の結果ー 全学共通教育センター 井戸慶治 他	Ｄ③ 16：50～17：15 ■徳島文理大学のＦＤ活動報告～授業改善を目指して～ 徳島文理大学 中原祐一
	Ｃ④ 17：20～17：45 ■自己主導型学習シラバスを通した学習モチベーションと自主学習の促進 全学共通教育センター Steve T. Fukuda	Ｄ④ 17：20～17：45 ■大学の授業における学生の学びの動機付けを促す要因ー教員・学生間の相互作用に注目してー 大学開放実践センター 吉田博 他